

特集 :おらほの農地集積】

「アグリセンターと担い手の連携」

～未来に向け、地域が一丸となった地域農業推進基盤の確立～

ひねうし 日根牛地区



1. 地区の概要

事業名：経営体育成基盤整備事業	農家戸数：190戸
関係市町村：登米市（旧登米町）	担い手農業者：3人（うち認定農業者1人）
関係土地改良区：登米吉田土地改良区	担い手経営面積
工期：平成9年度～平成20年度	（現在）：48.5ha（平成18年現在）
受益面積：95.6ha	（計画）：60.0ha（平成24年目標）
総事業費：2,634百万円	利用集積増加率：114.0%
換地原案：平成10年度	利用集積率：50.7%（目標62.8%）

2. 地区の現状

日根牛地区の営農応援隊「日根牛アグリセンター」設立

経営体育成基盤整備事業日根牛地区は登米市東部に位置し、北上川左岸及び羽沢川に沿って展開する平地農村である。効率的な営農が行えるほ場条件を整備し、平成17年度に面工事が終了。現在、補完工事・確定測量等を実施しており完了間近である。

しかし、ほ場整備事業の要件である農地集積の推進、生産調整に対応した農地の有効活用、安心して農地の貸し借りや作業受委託ができる環境など、将来に向けた地域農業の課題が多いことから、これまでの考えを一新し「日根牛アグリセンター」を設立した。

アグリセンターの今後の活動・期待・役割り・展望としては、活動の 集団団地・転作団地及び連坦団地の取りまとめで、期待は 安心して農地の貸し借りや作業受委託ができる環境の整備であり、その役割りは

ほ場整備事業の要件達成のための農地集積の推進と高度経営体としての担い手の

育成で、展望は 将来に向け、地域の実情にあった農業の検討と推進であり、地区の農業振興団体としての指導役となることが期待されている。

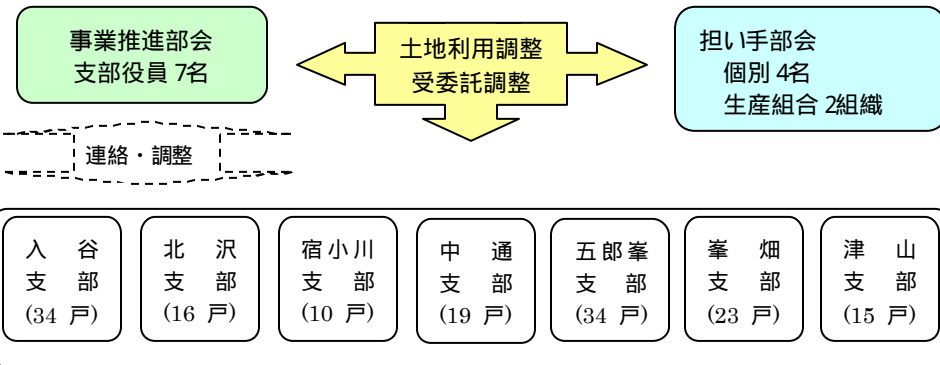
また、アグリセンター設立とニラハウスの関連は、今のところ直接関係はないが作業受委託により空いた時間をニラ等栽培する野菜農家へもう一つの役割りとして労働力の供給の場となることである。



日根牛アグリセンター概略

日根牛アグリセンター

役員：所長（1名）・副所長（2名）・幹事（若干名）・庶務会計（2名）・監事（2名）



構成員 151戸

3. 地区の特徴

ほ場整備事業で畑地の団地化を図り園芸振興を目指す

日根牛地区の畑地は高付加価値農業として当初から位置付けられており、前は各集落に分散し自家消費野菜を中心に作付けされ市場出荷は少ない状況であった。この地域の土壌は畑作に適しており、事業実施に当たっては、地域の合意によりハウス野菜を中心とした園芸振興を図った。点在していた畑9.8haの集約を図り、規模拡大を進め、高収益を目指した農業経営を推進するため、路地野菜からハウス栽培の「ニラ」「ナス」等へと転換を図った。



ほ場整備を契機にニラのハウス栽培を拡大した加藤さん



日根牛地区のハウス園芸

この地区はニラを中心とした園芸野菜に取り組んでいる地域で、その中の担い手である加藤一郎さんは水稲+野菜の栽培に取り組み露地栽培から畑団地の集約化により、現在はパイプハウス13棟の「ニラ」栽培を行っており、今後も規模拡大中である。

長男の圭一さんは、結婚を契機に就農しニラを中心に軟弱野菜も手がけている。また、ほ場整備事業により集積された大区画ほ場の転作団地では種子用大豆の栽培に取り組んでいる。平成18年度はほ場整備地区内で10haに及び転作大豆栽培を受託した。



平成19年度からの品目横断的経営安定対策助成対象の農業経営体となる日根牛地区担い手の加藤さん等は、農業経営高度化支援事業の高度経営体対象でもある。

日根牛アグリセンターは、転作の団地化等による農地集積を図り、担い手が地域住民に信頼されるよう土地利用調整を推進している。



問い合わせ先
水土里ネット登米吉田（登米吉田土地改良区）
〒987-0703 宮城県登米市登米町小島東針田 158
TEL：0220-52-2072 FAX：0220-52-2898